

禾気

海外展

「異領域芸術合同創作計画」

呉開乾 陶芸

本計画の展示作品は、ユニークな動物の形と稲と同音の文字を使った命名により、展示への親近感と意義を感じてもらう。最も独特な作品は陶印・磁印で、小さいため、薪窯の最上部で最も強い火で直接焼成して、稲を使った灰釉の最高の色を引き出す。磁土も陶土もそれぞれ特有の味わいがある。会場では、陶印と磁印を実際に使用し、オリジナル作品を創作できる。

收割「稻」位(稻刈り完了)





50年前、台湾の農村ではまだ鎌を使って稲を刈っていました。収穫機がある現在は便利になりました。本作品は、台湾の神獣が七星宝剣を捧げ持つ姿で、豊作を象徴しています。

満嘴仁義「稲」徳（口を開けば仁義道德）





この作品の口は、硬貨を入れた後取り出すことができない作りになっています。米は有料であり、高価ではありませんが値切るのも困難で、一般的に即決価格で取引されます。



輪「稻」我啦!(私の出番)



待ちかねたような可愛らしい様子で、「いつでも出動しますよ!」という気持ちを表現した作品です。



「稲」在「虎」心（道は吾が心にある）





「道在吾心」をもじった作品名には、ユーモア以外に、古代の農家の虎爺信仰にちなんで、天候の安定を祈る意味も込められています。

風獅「稻」順（風の神が天候を守る）





令旗を握り、風を司る金門の
神獣風獅爺は、天候が不安定
な時に人々の心を慰める精神
の寄りどころです。



「稻」味十足





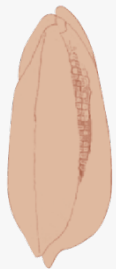
まっすぐに立つ稲の茎を体として使ったところが、本作品のおもしろさです。両手を地面に垂らし、短い足で直立する様子は、漫画的な手法を活かした表現です。



牛逼(すごい)



現在では牛の価値は美味しさだけで測られますが、牛は古代においては稲作の強力な助っ人であり、耕作や穀物の運搬など、あらゆる場面で活躍していました。



豊収図印章

陶器に刻印したものです。
薪窯で焼成して、わら灰
を使用して色を付け、人
と牛でもって自然に豊作
をイメージしました。





禾気印章(陽刻)

粘土を高温で薪窯焼成して、全体に玉のような質感を出しています。これはわら灰による不思議な効果です。



禾気印章(陰刻)

薪窯焼成で寿山石印のような美しさに仕上げた、究極の陶印作品です。



如是壺印章(陰刻)

ミニサイズの急須と炉をペアにした作品で、急須としても印としても使用できます。





自在印章(陰刻)

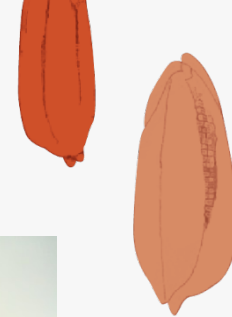
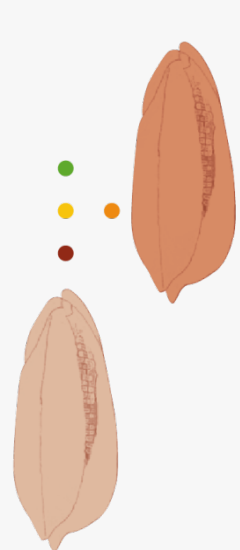


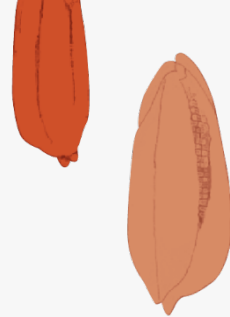
四面に人体を彫り入れ、素朴な趣があります。
高温で四面の人物を均等に鍛え出しました。

大龍壺

計2回の薪窯焼成を経て作られたケトルは、農繁期に畑にお茶を届けるための大切な道具です。



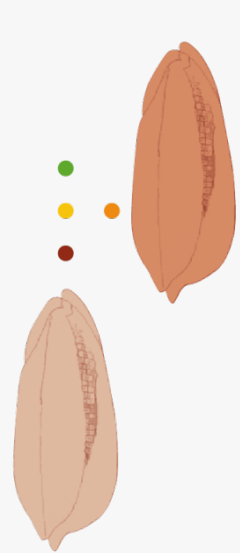




招財猫

台湾の商店でよく見かける財運を呼ぶ神獣で、薪窯焼成により作られた珍しい作品です。元祖は日本の招き猫です。







禾氣

海外展

「異領域芸術合同創作計画」

END